

# 戦争下の人口調査

本年二月二十二日現在

正しい申告國のため

奈良縣臨時人口調査部

## 女子挺身隊と母の力

大日本婦人會奈良縣事務所

平時の如く男子は外で働き女子の一翼を擔つてゐる。又前線基地に家にあつて之を助ける。云々。で出撃を待つ航空機の覆ひな様々なまわりの考へては到底此にて作戦に大きな役割をなし或はの大戦を乗り切る事は出来な。勇士の衣類となり露營の夢を包む天幕ともなる重要な軍需資材の時局に深き理解をもつ若き女性である。

は大いに國家の危局を身に體し、挺身隊員は隊長の指示に従ひ掛て送し、進み出で直接戦力増強員の指導の下に整然として持場に寄與する爲勇躍挺身隊に参加持場につき其の特性を最高度にの氣構へを示してゐるのである。

「これは翼の張布です、これは天幕です」と出来上り品を示し原の宮に挺身隊公を誓つた一隊、して語る顔の晴々しき法戦下業は〇〇名を工場に防いで見る、しい限りである。

何干坪もある機織工場内に、受入側の事務取締役さんは語るは近代化を誇る自動織機が一つ、挺身隊の入社したのは昨年十かり勢そろひをして一齊に活動二月十九日丁度大本營發表にてをしてゐるシュウく、と摺合ふタカラ、マキノ島の玉碎を報導機織の間からすばらしい速さでせられた國民奮激の日でありま織出す綿布こそはがては巨大した。彼女達には入社早々胸にき度いことを切に御願ひする。この部分品として航空機生産強くひいた事と思ひます。こ

の感の初歩を勇ましく踏み出した隊員一同の心の底には、おそらく強い力が脈々として流れて、今こそ命倍にこ誓ひ合つた事である。

今日まで一ヶ月他の工員の模範となすべき事例は数々ありませんが、殊に隊員中島コウさん(探實出身)の如きは昨年九月兄さんが應召せられた後今年八十一歳になる祖母と一昨年來病床につき母をかねて運動のかわり五反の耕作を連動のやり逃げ一家を支へてゐる健けな女子でありませぬ。この命倍にも三倍にして挺身隊の靈忠奉國の至誠は必ずや前線に通じて居ることでしょう」と語つて居られる。

然るに一方どうした事かお母さん達の中に、我が子に對する溺愛から却つて之を制止し或は傍觀して挺身隊に協力する態度に出でざる向が未だ少くない。

敵陣に覆れる刹那にもお母さんの名を呼んで國家の爲に従容して散華する理、日本軍人こそ子でありませぬか其の母にして何故小さな私情が動くものでせうか。

必勝の年にあたり女子挺身隊の重大使命に深く思を致され日本婦人傳統の偉大にして崇高なる献身的底力を充分に發揮して敵にき度いことを切に御願ひする次第である。

## 金屬回收の表彰と本年度の非常回收について

昭和十七年度一般家庭金屬特別回收の成績優秀なるものに對しては調査の結果縣より表彰又は感謝狀が贈呈されたのは御承知の通りであります。

昭和十八年度に於ては一般家庭でない營業者の店舗の金屬其の他官廳公共團體指定施設等を對象として回收が行はれてゐるのであります。皇國の興廢を賭しての熾烈な戦は實に金屬の消耗戦である。云ひ得るのであります。此の金屬の供給が勝を決するのであります。この解決は良質にして多量なる銅鐵鉛の即時供給が最も必要であります。

戦線は目下艦船航空機を要求して吾々銃後國民の金屬供給による參戰を彌が上にも切望してゐるのです。何卒決戦を前に本年度は更に一段、供出せらる、様御願ひする次第であります。

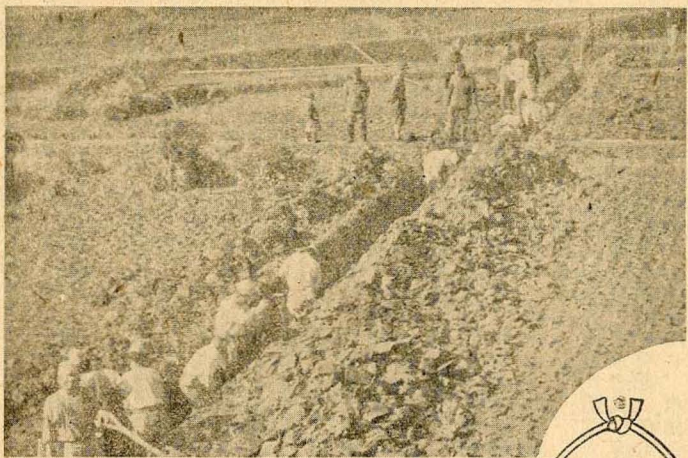
尙十七年度に於ける表彰者は次の通りであります。

- 金屬回收表彰
- 學校區として表彰
    - 奈良市椿井校區
    - 町村として表彰
      - 北葛城郡馬見村
      - 南葛城郡吐田郷村
      - 高市郡八木町
      - 北葛城郡五位堂村
      - 添上郡田原村
      - 山邊郡丹波市町
      - 二階堂村
      - 南葛城郡葛村
      - 町内會部落會表彰
        - 奈良市餅飯殿町々内會
        - 橋本町々内會
        - 山邊郡二階堂村田井庄出郷部
        - 落會

## 個人表彰

- 生駒郡生駒町菜畑 駒岡 乘圓
  - 山邊郡二階堂村大字北菅田 西川謙之輔
  - 生駒郡山町大字北郭田 増田喜代藏
  - 南葛城郡葛村大字今住 安田 寅吉
  - 宇陀郡生村木村供出協會 代表 上島清一郎
  - 宇陀郡大字院町出新 久保 順一
  - 吉野郡小川村大字鷺家口 宮本 房吉
  - 北葛城郡馬見村大字北菅田 平井 太郎
  - 北葛城郡高田町東西丁目 田中 樽治郎
  - 吉野郡國樺村字窪田垣内 吉田 政吉
  - 大淀町大字下淵 菊田 鹿藏
  - 宇陀郡會爾村今井 田合 孫一
  - 室生村下出 荒木 良仙
  - 磯城郡耳成村石原田 瀧島佐治郎
  - 高市郡高取町清水谷 宮本 喜造
- 功勞者表彰
- 奈良縣南葛城郡御所町 十二町内會 辻本 邦藏
  - 宇陀郡生村字下田口 豆谷 新造
  - 北葛城郡菅尾町大字南 小野塚シマエ

# 組隣の和の大



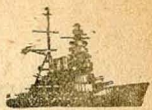
宇陀郡大字院町下品部協會  
ニ於ケル暗渠排水工事

土地改良の完遂  
麥の肥培管理  
勝利か、  
滅亡の死か、  
一億國に殉ずる  
秋は來た

女子挺身隊と母の力  
木材、木炭、  
薪の増産供出

2月

回覽



# 勝利か、滅亡の死か、

## 一億國民に殉ずる秋は来た

奈良縣 内政部長 保岡武久  
大政翼賛會奈良縣支部常務委員

此の標題は新年劈頭、大本營陸軍報道部の秋山中佐が中部日本新聞紙上で、決戦第三年の展開に就て最も卒直眞摯なる見解、信念希望を披瀝されて、一億國民を警めた記事の標題であつて、この談話は我等が再讀三思すべき大文字である。

今や戦局が最も重大なる段階に在り、眞に皇國の隆替に關して居ることは、畏くも舊臘帝國議會の開院式上賜つた 至尊の御勅語を拜して國民は深く洞察體得すべきである。即ち航空機船の生産力に於て我を切り離した敵は今日をこそ、我が日本を、我が大和民族を打倒する絶好の機會なりとして、凡ゆる犠牲に目を覆ひ、豊富なる物力の限りを盡し猛烈なる總反攻を斷行して来た。我が前線將兵の阿修羅の如き奮戦激闘に依り敵に絶大なる出血を與へて居るにも拘らず、無念千萬、航空機の量の不足の爲に、補給力の大きな懸隔の爲に、敵撃滅の機會と場所を眼前に見ながら、ジリジリと後退を餘儀なくされ、遂にギルバート諸島のタラワ・マキン

決勝の年、本年度の食糧需給の安全を期する爲には、目下の麥の増收を得らるゝか否かに、懸つて居るのであります。  
處で本縣では農家の方々の眞摯な御努力で一般の絶大な御援助に依り麥の作付は其の播種時期も適期を得播種面積に於ても大變に好成绩を以て終りました。而し愈々之からの肥培管理が又重要な事柄でありまして之を多少でも怠つては増産の目的は到底果せません。  
扱て肥料に就ては現在金肥の多くは望まれません。勢ひ下肥、堆厩肥等自給肥料に依る外はありません。特に下肥の効果は麥作には非常に顯著であつて相當稀薄なものでも時々散布して欲しいものであります。  
特に本年は早播のものには徒長の虞れがある様でありますから麥踏(下肥)の散布が非常に必要な事柄であります。それから土入(中耕)、麥踏が管理(して)最も必要な事では肥培を計り土入(麥踏)により麥の分蘖を良くして、徒長(倒伏)を防ぐ事が、重要な點(思ひ)ます。

の玉碎となり、西南太平洋の防壁たるニューブリテンの敵上陸となり、ラバウルの攻防は言語に絶する血闘となつて来たのである。敵の狙ひは一旦「日本に時を與へるな」といふ事であり、日本が飛行機と船舶とに於て大増産を完遂して立ち上り、更に大攻勢に轉ずる日こそ米英破滅の日であることを恐れて、その暇を與へない前に日本を打倒し、土俵から突き出さうとするのが敵の唯一の目標である。我等はこの事態を見てシツとして居られぬ。我等の祖先が國難一度來らば斷乎立つて祖國の危急に赴いた、烈々たる傳統に輝く大和魂を今こそ奮起して、三千年來未だ曾て無いこの重大なる祖國の危急に、全力を傾け盡して國家の持護に一身一家を捧げねばならぬ。祖國の危急を如何か！ 今日の場合大政翼賛の道は如何か！ 臣道實踐の道は如何か！ それは敵が我から奪はんとする「時」を極度に利用して、昨日よりは更に二時間でも三時間でも餘計に働くことだ。戦力を産み出すことより外にない。

飛行機、船舶の増産に體當りで行け！  
食糧増産の爲に土地改良、麥の増産の爲に肥培管理に薪炭の増産に農山村は立上れ！  
木材を(ごん)出せ、木材の供出は飛行機と船舶の増産の大事な鍵だ！  
今こそ勝利か！ 滅亡の死か！ 大和聖地に、最勝の國恩に安住して来た大和の六十萬縣民よ！ 今すぐに「時」を選さず祖國日本の危急に老ひも若きも、男も女も、奮ひ立つべき秋が来たのだ。祖國の運命は我々縣民一人一人の背に重く懸つて居るのである。

# 「必勝魂で一億總突進」

敵の反攻は益々烈しくなり今や頑敵撃擢の重大な秋、増産に戦争生活に本當の力を發揮せねばならぬ。「總員戰團配置」についた一億國民はあらゆる不自由と一切の困難を克服し「必勝魂」で突進せねばならぬ。

イ、新調や新規購入をやめて手持の物を生かして使ふ工夫をし、最低の生活で頑張り抜くこと。

物の節約を圖ることは、やがて戦争にもつとも必要な飛行機、船などの生産が増すことになる。此の際不要品や退蔵品は出来るだけ隣組などで融通し合ひ、また物の修理更生を工夫せねばならぬ。

ロ、麥の手入れ、堆肥の積み、藁工品の生産などを勵行し、増産の實を擧げること。

食糧を國內で賄へるか否かは戦に勝つために極めて重大である。二月十七日の祈年祭には神前に今年の豊作を心から祈願し真心こめて食糧増産に邁進せねばならぬ。麥の手入れには農家は勿論、その他の人々もあらゆる手段を盡して協力し増産の完遂を圖るべきである。またこの際手間肥の積込みに一段と努力を拂ひ少い金肥を補はねばならない。なほ農家では寸暇をも利用して軍要物資の輸送などに最も必要な、かます、むしろ、繩などの増産にも努めねばならぬ。

ハ、増産のために土地改良を完遂すること。  
食糧増産の爲に農家も非農家も土地改良に勞力を總動員して必ずやり遂げやう。

ニ、木材、木炭、薪の増産、供出を圖ること。

木材は直接戦争に、木炭、薪は家庭燃料のみならず軍需品の生産に輸送力に夫々多量に要求せられてゐる。生産者は割當量を一日も早く供出し、消費者は少しでも重要部面に振り向く様節約しよう。

# 二月の常會徹底事項

(以上本部より運達の内容)